

# 世界は 広いのよ

小学校を卒業した春休みのこと。家族で近所のラーメン屋さんに行き、醤油の香りの効いたラーメンと具沢山の熱々の餃子を頬張っていた。ふとお店の中を見渡すと、サリーの衣装をまとい、額に赤い印をつけたインド人らしき女性がいることに気がついた。当時、私はまだ海外旅行など行つたことがなかったし、近所にも外国の人は住んでいなかった。だから、その女性が上手にお箸を使ってラーメンを食べている様子がとても驚きで、じーっと見てしまっていた。

そうしたら、その女性が、ラーメンを食べ終わり、お会計を済ませた後に、なんとこちらのテーブルに近づいてきたのだ。怒られるのかと身構えていると、彼女はニコッと笑い、「世界は広いのよ。あなたも世界に羽ばたいて行ってね」と片言の日本語で話しかけてくれた。私は緊張していたこともあり、

そのときは何も返事をする事ができなかった。今となつてはお礼くらい言えればよかったと悔やまれるのだが。しかし、そのときの出来事がなぜか心に残った。それまでも、テレビのニュースやクイズ番組では他の国の情景を目にしていたが、確かにいろいろな国があり、多様な人がいるんだろうな、と少し身近に感じるようになった。

その影響もあり、中学校に入るとアメリカの女の子と文通を始めた。英語はまだ習い始めでうまく書けなかったので、写真やポストカードを送り合っていた。アメリカの草原の景色がまるで映画のようで、また、宇宙開発に携わりたいと思うようになった頃でもあったので、いつかは留学したいと強く思ったものだ。それが、大学院時代の留学、さまざまな国の人々との共同研究、そして宇宙飛行士の道につながっていったことは、とても不思議なご縁である。

あのときのインド人女性が何を思つて話しかけてくれたのか、今となつては知るすべはないが、ほんの小さな言葉が、他の人に大きな影響を与えることを、身をもって痛感した。私も今、子どもたちへの宇宙教育に携わるようになり、そのときの言葉をかみ締めている。



千葉県松戸市生まれ。1999年国際宇宙ステーション(ISS)の宇宙飛行士候補者に選ばれる。2010年4月スペースシャトル・ディスカバリー号で宇宙へ、翌年JAXA退職。内閣府宇宙政策委員会委員、日本宇宙少年団(YAC)アドバイザー、女子美術大学客員教授、日本ロケット協会理事・「宙女」委員長などを務める。著書に、「宇宙飛行士になる勉強法」(中央公論新社)、「夢をつなぐ」(角川書店)、「瑠璃色の星」(世界文化社)など。